

# ブリュノ・ヴィアール

(フランス エクス・マルセイユ大学教授)  
Bruno Viard (Univ. d' Aix-Marseille)



著書に『三人の甥あるいは愛他主義と利己主義の和解』(2002)『詩人と経済学者、文学への人類学的アプローチ』(2004)『人類の思想家ピエール・ルルー』(2009)『フランス・ロマン主義作家を読む』(2009)等、邦訳されたものに『100語でわかるロマン主義』白水社文庫クセジュ(2012)がある。社会学や人類学の方法論を取り入れながら、文学・思想史を研究、その対象はおもにロマン主義時代ということになる。

『100語でわかるロマン主義』白水社文庫クセジュ 訳者あとがきより抜粋・加筆

## 「共和主義的三原則の理論家 ピエール・ルルー」

フランス語(当日翻訳原稿配布予定)

日時:2013年10月21日(月)16:20~18:20

会場:立命館大学末川記念会館2階第3会議室

事前予約不要、参加費無料

### 「共和主義的三原則の理論家ピエール・ルルー」

1830年はフランスでは近代社会の始まりの年である。とりわけ、ピエール・ルルーが親しくつきあっていたサン＝シモン派の動向のなかから、個人主義と社会主義という新語が作り出された。我々は今日なお、その遺産のうえに生きているのである。これらの概念を対立させるのではなく、ルルーはその統合を試みた。彼は1848年、フランス共和国が自由・平等・友愛の標語を採用するにあたって大きく寄与した。20世紀に入りマルクス主義の覇権のもとで忘れられていたルルーは、今日では大変予言的であるように思える。というのも、彼は1832年にはすでに、現代社会が本質的に個人主義と全体主義の二重の脅威にさらされていたことを理解していたからである。政治的問いを大きく超えて、彼の思考は人類について、その心理学について、宗教、そして歴史についての一つの独自の眼差しを提示しているのである。

### ブリュノ・ヴィアール教授 講演日程

- 21日(月)立命館大学 16:20-18:20 「共和主義的三原則の理論家ピエール・ルルー」
- 22日(火)日仏会館(東京・恵比寿) 18:00-20:00  
「マルセル・モース:利己主義と利他主義の和解」
- 23日(水)東京大学(本郷キャンパス) 18:00-20:00  
「共和主義的三原則の理論家ピエール・ルルー」
- 24日(木)中央大学(多摩キャンパス) 14:40-16:40 「ルソーは精神分析者か？」
- 26日(土)別府大学 13:30-14:50 「ルソー、ロマン主義、そしてジョルジュ・サンド」  
(日本フランス語フランス文学会秋季大会)

